

エコアクション21 環境経営レポート (2023 年度版)

対象期間

2023年7月1日～2024年6月30日

株式会社 焼津精機

〒425-0087

静岡県焼津市保福島1240-12

第16版 作成日 2025年 4月 2日

① 事業活動の概要

1 事業所名及び代表者名

- * 事業所名 株式会社 焼津精機
- * 代表者名 代表取締役社長 浅原伴美
- * 所在地 〒425-0087 静岡県焼津市保福島 1240 - 12
- * 連絡先 TEL 054-627-0175 FAX 054-629-5350
E-Mail yaizus@yaizuseiki.co.jp

2 EA21 環境管理責任者

- * 責任者 生産管理部長 平松康弘
- * 連絡先 TEL 054-627-0175 FAX 054-629-5350
E-Mail yaizus@yaizuseiki.co.jp

3 事業内容

- * 半導体・液晶機器・工作機械部品・船舶部品・航空部品の製造及び販売

4 事業規模

- * 資本金 10,000 千円
- * 社員数 38 名
- * 床面積 1489 平方メートル
- * 事業年度 毎年7月1日～6月30日の1年間
- * 今期の集計期間；2023.7～2024.6

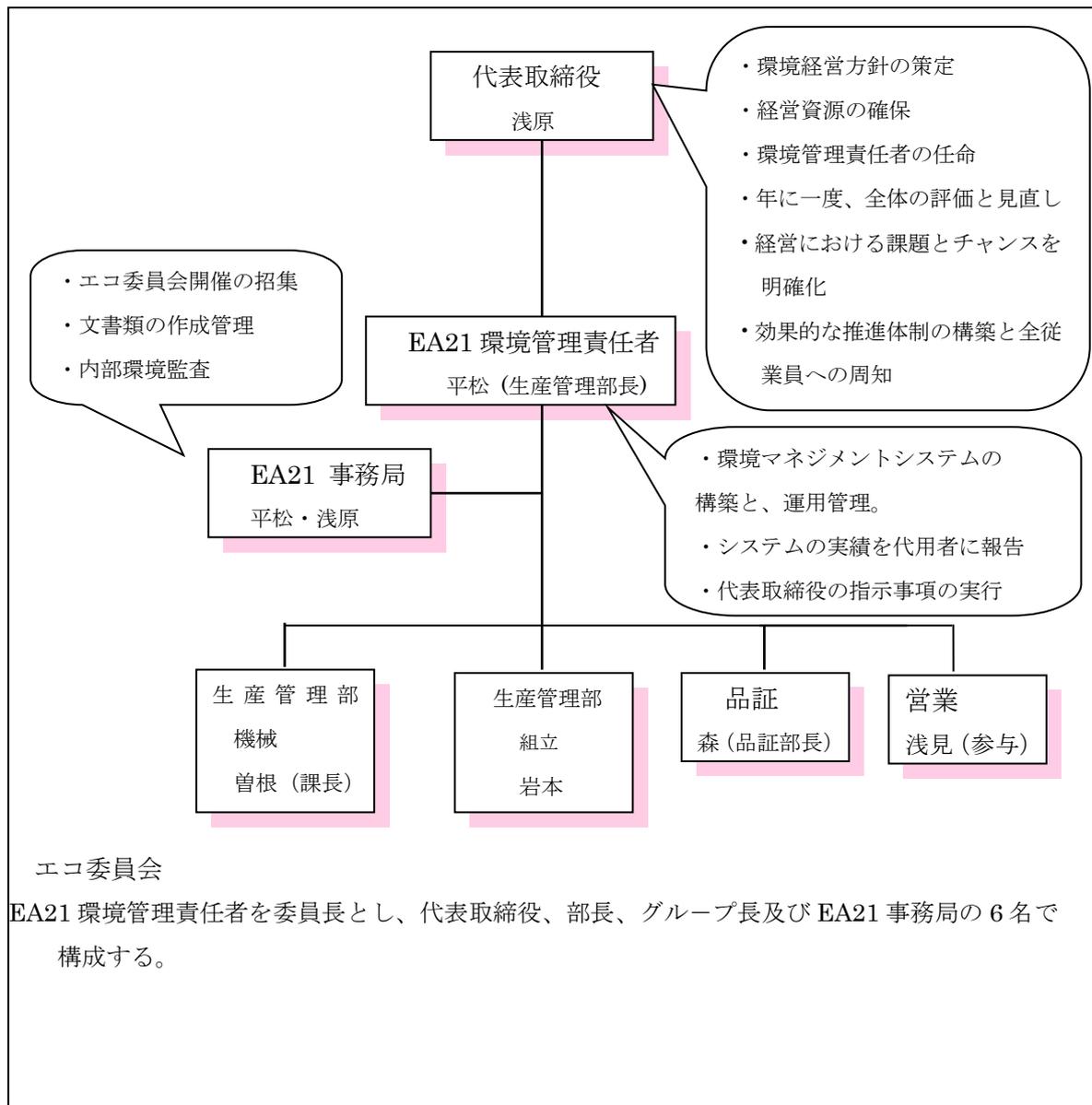
5 対象範囲（認証・登録範囲）

- * (株)焼津精機 本社・工場
- * 半導体・液晶機器・工作機械部品・船舶部品・航空部品の製造及び販売

②環境経営システムの取組体制

* 当社におけるEA21 運営組織（ECO21 委員会）の構成は下記になります。

ECO21 委員会メンバー表



③ 環境経営方針

環境経営理念

私達（株式会社 焼津精機）は、最先端技術による物造りを推進すると共に、その事業活動や製品が環境に及ぼす影響を考慮し、環境への負荷を継続的に低減する。

行動指針

環境経営理念に基づき、以下の行動方針により環境保全活動を推進します。

- 1) 近隣、地域ならびに工場内の環境保全のために、環境関連法規制等を遵守します。
- 2) 地球温暖化防止
 - ・ 二酸化炭素の排出量を、事業活動において使用する電力及び燃料の使用量の削減に取り組み地球温暖化防止に貢献します。
- 3) 廃棄物排出量の削減
 - ・ 製造工程で発生する不良製品を削減し廃棄物排出の削減に取り組みます。
 - ・ 廃棄物の分別を推進します。
 - ・ 裏紙の回収と再利用に務めます。
- 4) 総排水量の削減
 - ・ 使用水を節水して総排出量の削減に務めます。
- 5) 事務用品を主体とするグリーン購入を促進します。
- 6) 地域環境の保全と地域社会との調和に取り組みます。
 - ・ 定期的に地域清掃等を通じて地域とのコミュニケーションをはかります。

制定日 2006年 9月 20日

改定日 2012年 7月 1日

株式会社 焼津精機

代表取締役 浅原 伴美 印

④ 環境経営目標

* 当社は、1)CO₂排出量削減、2)廃棄物削減、3)水使用量削減、4)グリーン購入、5)環境コミュニケーションについて、以下の目標を掲げて環境経営活動に取り組んでいきます。

中長期目標として、1)CO₂排出量削減、2)廃棄物削減、3)水使用量削減、2021年～2023年の間、2018年度値対比0.5%/年削減を目標とします。

環境負荷項目	単位	2018年実績 (基準値)	2021年目標 (基準値対比 -0.5%)	2022年目標 (2021年目標 対比-0.5%)	2023年目標 (2022年目標 対比-0.5%)	2024年目標 (2023年目標 対比-0.5%)
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	545318.37	539878.82	537179.42	534493.52	531821.05
購入電力	kWh	1049022	1038558.0	1033365.2	1025098.28	1019972.79
ガソリン	L	8593.3	8507.5	8465.01	8422.68	8380.57
軽油	L	5240.27	5188.00	5162.5	5136.69	5111.00
産業廃棄物(廃プラ)	m ³	24.4	24.16	24.04	23.92	23.80
水使用量	m ³	650	643.6	640.3	637.1	633.91
グリーン購入	金額比率	全体の 17.38%	全体の 17.47%	全体の 17.56%	全体の 17.65%	全体の 17.74%
環境コミュニケーション		地域清掃 の実施	地域清掃の 実施	地域清掃の 実施	地域清掃の 実施	地域清掃の 実施

⑤ 主要な環境経営計画の内容

※ 今期（2023年7月1日～2024年6月30日）の経営計画

1. CO₂排出量の削減

- ①年2回電力利用状況分析表からデマンド値が適正か確認する。（管理事務リーダー）
- ②エアコンのフィルターの清掃を毎週金曜日に行う（生産管理 課長）
- ③使用していない機械、コンプレッサーの電源を切る（生産管理 課長）
- ④出入り扉はしっかり閉める（生産管理 課長）
- ⑤配送ルート効率化を図る（営業 参与）

2. 廃棄物の削減

- ①裏紙を使用する（管理事務リーダー）
- ②加工で出た切粉の分別を行う（生産管理リーダー）
- ③出荷時の包装を簡易化する（品質保証リーダー）

3. 水使用量の削減

- ①手洗い時、水を流しっぱなしにしない（管理事務リーダー）
- ②部品洗浄時には洗浄槽に水を溜め洗浄を行う（品質保証部リーダー）

4. グリーン購入

- ①環境ラベル認定製品、省エネルギー基準適合製品の購入（管理事務リーダー）

5. 地域社会との調和

- ①年2回定期的地域清掃を行う（生産管理部長）
- ②年1回環境関連法規等を含め、適合性を判断（品質保証部長）

5. 緊急事態への対応

- ①機械内部より火災が発生したことを想定し訓練を行う（生産管理 課長）
- ②機械より油が流れ出たことを想定し訓練を行う（生産管理 課長）

⑥ 4年間の環境負荷実績

環境負荷項目	単位	2020年実績	2021年実績	2022年実績	2023年実績
CO ₂ 排出量	k g-CO ₂	533119.16	637312.11	556027.35	501031.98
購入電力	k W h	1096953.00	1248557.00	1029267	1030930
ガソリン	L	7726.21	6827.13	5844.89	6304.56
軽油	L	4515.08	5336.58	35159.13	5223.05
産業廃棄物 廃プラ	m ³	11.4	19.20	24.6	24.1
水使用量	m ³	529	606.50	490	513
ケガリン購入	購入比率	全体の13%	全体の12%	全体の12%	全体の12%
環境コミュニケーション		地域清掃の 実施	地域清掃の 実施	地域清掃の 実施	地域清掃の 実施

⑦ 環境経営目標と実績

1 昨年度の実績と環境経営計画の進め方

本年度も1年間、4つの目標を前提に昨年度の結果を踏まえ、各部署が数値の把握と社員の意識レベル向上に力を入れてきました。貼り紙及び朝礼にて活動を啓発し、データから年間、月ごとの結果を昨年度と比較しデータの検証を行いました。

※排出係数は0.486 (Kg-CO₂/kWh 2015年中部電力) を使いました。

環境負荷項目	単位	2023年目標	2023年実績	評価
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	534493.52	501031.98	○
購入電力	kWh	1025098.28	1030930	×
ガソリン	L	8422.68	6304.56	○
軽油	L	5136.69	5223.05	×
産業廃棄物(廃プラ)	m ³	23.92	24.1	×
水使用量	m ³	637.1	513	○
グリーン購入	金額比率	全体の17.74%	全体の12%	×
環境コミュニケーション		地域清掃の実施	地域清掃の実施	地域清掃の実施

⑧ 主要な環境経営計画と取組結果の評価

取組項目	重点項目	活動内容 (2023年度を 前期・後期 に分けて採点)	機械		営業、管理事務		品質保証		組立	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
CO2 排出量 削減	①購入 電力 削減	デマンド管理	/	/	3	3	/	/	/	/
		・エアコンのフィルター 清掃を行う	5	5	4	4	3	3	3	3
		・使用していない機械、 コンプレッサーの 電源を切る	4	4	/	/	5	5	5	5
		エアコンの設定温度を 厳守 夏28度 冬26度	5	5	5	5	5	5	5	5
	②産業 廃棄物 削減	・不良の削減により 材料のムダをなくす	2	2	/	/	/	/	5	5
		脱脂した油の再利用 梱包剤の再利用	4	4	5	5	4	4	/	/
水 使用量 削減	水 使用量 削減	・洗浄時水を 流しっぱなしにしない	4	4	4	4	4	4	4	4
環境 コミュニ ケー ション	法規制 への 適合	・年1回法の改訂等を 含め適合性を判断	3	/	3	/	4	/	3	/
		・側溝、土壌への 油流出防止	5	5	/	/	/	/	/	/
合計			32	29	21	18	25	21	25	22

* チェックは各部署の ECO 委員が 12 月と 6 月に活動状況を評価する

* チェックは 5 段階（5 完全、4 大体、3 普通、2 やや劣る、1 劣る）

⑨各部署の取組結果の評価ならびに総評と次年度の取組

* 下記は運用期間 1 年間における取組結果を ECO21 委員会が評価、並びに今後の課題等をまとめたものです。

機械

今年度も DX に注力し日程管理の部分ではスケジューラーの導入を進め無駄な素材の購入を無くしつつ生産が安定して行えるように取り組めます。

組立

結果：5 月に会社周辺の側溝の清掃を実施しました。
12 月に近隣の清掃及び駐車場の清掃を行いました。

営業

今年度も昨年同様にトラックでの納品が週 2 便ある為、軽油の使用量の増加が目立った売上ベースから今年度は目標に近い数字であったが、大幅な増加とはならなかった。

管理事務

裏紙の使用に関して、不要となった書類の整理を行い、それらを裏紙として使用し紙使用量削減に努めました。また使用していない電気、エアコンの温度も意識して削減に取り組めました。

品証

法規制の確認を 12 月に行い、違反はなく問題ありませんでした。

総合評価：ECO21 環境管理責任者

今年度は近年では一番多い売上となり生産負荷、電力等の増加が考えられました。結果として、大幅な増加もなかったことから、まとめて生産、出荷し歩留まりの少ない製品が多かったためと考えられます。次年度はさらに大きな目標を計画している為、生産管理 GR で進めている DX 化を進め、無駄のない効率のよい生産を行い、活動に取り組んでいってください。

次年度の取組内容 全部署；取組結果で、評価が 2 と 3 のものについて重点をおいて取組を行っていきます。

⑩ 次年度の取組内容

1. CO₂排出量の削減

- ①年2回電力利用状況分析表からデマンド値が適正か確認する。(管理事務)
- ②エアコンのフィルターの清掃を毎週金曜日に行う(生産管理 機械)
- ③使用していない機械、コンプレッサーの電源を切る(生産管理 機械、組立)
- ④出入り扉はしっかり閉める(全部署)

2. 廃棄物の削減

- ①裏紙を使用する(管理事務)
- ②加工で出た切粉の分別を行う(生産管理 機械)

3. 水使用量の削減

- ①手洗い時、水を流しっぱなしにしない(全部署)
- ②部品洗浄時には洗浄槽に水を溜め洗浄を行う(生産管理 機械・品証・組立)

4. グリーン購入

- ①環境ラベル認定製品、省エネルギー基準適合製品の購入(管理事務)

5. 地域社会との調和

- ①年2回定期的地域清掃を行う(全部署)
- ②年1回法の改定等を含め、適合性を判断(品証)

5. 緊急事態への対応

- ①機械内部より火災が発生したことを想定し訓練を行う(生産管理 機械)
- ②機械より油が流れ出たことを想定し訓練を行う

⑪ 環境関連法規等の遵守状況の確認

及び評価の結果ならびに違反、訴訟等の有無

遵守評価日：2024年6月30日

法規等の名称		適用対象	届出	業者 契約	管理	法律の 遵守
廃棄物の処理 及び清掃に関 する法律	事業系一般 廃棄物	事務所のごみ	—	○	業者委託契約	○
	産業廃棄物	廃プラ、金属屑など	—	○	処理業者委託 契約、処分先 の現地確認、 マニフェスト の発行・回 収・保管	処分先の 現地確認 実施 マニフェ ストの 保管
		廃油	—	○	同上	○
静岡県産業廃 棄物の適正な 処理に関する 条例	産業廃棄物	混合廃棄物	—	○	産業廃棄物管 理責任者の選 任 産業廃棄物処 理委託先の現 地確認と記録 の保管	○
PRTR法	SDS	塗料、溶剤、接着剤、 切削油、潤滑油、	—	—	PRTR 届出規 制以下の取扱 管理 SDS収集	対象外
浄化槽法		浄化槽	—	○	保守点検 水質検査 定期点検	○

騒音規制法 震動規制法 静岡県生活環境の保全に関する条例		コンプレッサー 自動車 家電 パソコン	特定施設	—	騒音、震動に係る特定施設届出書 自動車リサイクル法 家電リサイクル法 資源有効利用促進法	○
フロン排出抑制法		空気圧縮機、室外機			廃棄対象なし 簡易点検	○
消防法	危険物	潤滑油、溶剤等の数量 遵守、保管	—	—	少量危険物保管の管理	○

- 1) 上記リストの遵守状況を確認評価した結果、違反はありません。
- 2) 訴訟もありませんでした。
- 3) 地域周辺からの苦情として今年度はありませんでした。

⑫代表者による全体の評価と見直し

*環境活動の取組結果を代表者（社長）が評価、並びに今後の課題等をまとめたものです。

環境活動の取組結果の評価

環境活動の取組結果の見直し、今後の課題

基準年度(昨年度)0.5%減とした目標に対して、今期実績値は、ガソリン、水、温室効果ガスについては、目標に対して達成できました。今年度は工作機械が好調であったことから前年度の売上から3割近くの売上増加となりました。そのような状況でも、設備等を計画的に稼働することを進め、上記3項目の削減につなげていきました。

引き続き、生産活動を通じて、段取り改善、加工時間短縮、不良低減活動、さらに不要機械等の計画停止、不要照明の消灯に取り組み電力使用量の削減に取り組むとともに、消耗品消耗工具購入の削減、廃棄物の発生抑制や再利用を今期も推進します。

二酸化炭素の削減については、軽油 ガソリンともに3年前と比べ約50円程度価格も上昇している為、二酸化炭素排出量が達成できませんでしたが、計画的に効率的な出荷をしていくことで無駄を無くし、少しでも削減に取り組んでまいりました。

電気の使用量に関しては、増加はしましたが受注量の増加により、機械稼働の増加が、大きな要因だったと推察されます。引き続き、長期不在時におけるPC電源や、トイレの便座暖房OFFの省力電力化設定の徹底といったことに加え、DX化による取組みを進め生産性向上を目指し、各部署の枠組みを超え合理的な方法を模索し、さらなる目標達成に向け活動をお願いします。

今後は新たな加工（セラミックス）へ挑戦するために今年度は設備を導入します。

さらなる電力増加を見据えた対応と少人化に対応していくためのロボットによる自動運転を考えています。

環境活動を進める中で社員一人ひとりが二酸化炭素の排出量の削減等の達成に向けて行動し、カーボンニュートラル社会の実現に向け、作業効率の向上と改善を行い、より環境にやさしい活動を取り入れるようお願いします。

2025年4月18日

代表取締役 浅原伴美